日本とドイツの働き方・生活の違いについて

吉岡　奈穂

１、はじめに

私は現在大学４回生で、来年の４月から人材業界に就職することが決まっている。就職活動を通して、世の中にはたくさんの働き方があり、現在も急速に多様化していることを実感した。その中で、今回ドイツ・アウクスブルクを訪問する機会を得たことをきっかけに、ドイツの働き方に関心を持つようになった。ドイツといえばアメリカ、中国に次ぐ世界有数の経済大国でありながら、労働時間が比較的短くワークライフバランスを重視する国として知られている。

そこで本レポートでは、ドイツにおける人々の働き方や、仕事と生活の両立について、今回の訪問期間中に施設を訪れて学んだことや、ホストファミリーへのインタビューなどを通してまとめたいと思う。多様な働き方について学ぶことで自分自身の視野を広げるとともに、来年から人材業界で働く社会人として、一人ひとりが自分らしく無理なく働くことができる社会について考えたい。

２日曜日はすべてが休み！？

ドイツに訪問して最も驚いたのは、日曜日は多くのお店が閉まっており買い物やどこでも行きたい所に遊びに行けないということだった。ドイツには「Ladenschlussgesetz（店舗閉店法）」と呼ばれる店舗を営業できる時間に一定の制限を設ける法律があり、原則として日曜・祝日は店舗を閉めることが定められている。（※2006 年の連邦制改革によって現在は各州が営業時間に関する法律の制定権限を持っている。）

この制度の背景には、店舗で働く人々の休息を確保するとともに、日曜日・祝日に仕事から離れて過ごす時間を社会全体で守るという考え方がある。ドイツにおいて、日曜日は憲法によっても特別な休息日として手厚く保護されている。

日本人にとっての日曜日は家族でレジャーに出かけたり、外食を楽しんだりする「お金を使い、お店が繁盛する日」という認識が強い。特に飲食店や観光業など、消費者と直接関わる仕事では、「稼ぎ時」となる重要な営業日である。実際、私自身も大学のない日曜日はアルバイトに行ったり友人と遊んだりすることが多い。そのため日曜日に町が静かになると聞いたときは非常に驚いた。

ホストファミリーと話している際、「じゃあ、あなたはいつ家族とゆっくり時間を過ごすの？」と尋ねられた。私はすぐに答えることができなかった。私は日本では家族や友人とゆっくり過ごし休息する文化や意識が、ドイツほど根付いていないと感じた。日曜日に買い物ができないことには不便な面もあるが、国全体で徹底した休日や休息の時間を守る仕組みがあるからこそ、プライベートや家族の時間を大切にできると感じた。これは日本とドイツの働き方、生活の仕方の大きな違いであり、非常に興味深い発見だった。

３ジョブ型とメンバーシップ型
～採用の違いから見る働き方の違い～

日本

まず日本で伝統的に根づく雇用は「メンバーシップ型雇用」と呼ばれる。これは職務や勤務地を限定せずに人材を採用し、入社後に仕事を割り当てる雇用形態である。私自身も就職活動をしていて、このような採用求人を非常に多く見かけた。

また、日本では長年「終身雇用」という働き方も定着している。現在では転職という選択肢も一般的になりつつあるが、新卒で入社した会社で長く働き続けることが１つのスタンダードとして考えられてきた。そのため就活生はこれから４０年以上働く会社を慎重に選び、仕事内容だけでなく会社の雰囲気や福利厚生などなどさまざまな面から企業を比較する。

つまり、日本では「特定の職務（仕事）」に就職するというより「会社」に就職し、そこでさまざまな仕事を経験しながらスキルを身に着けキャリアを形成していくという働き方が根づいている。

ドイツ

今回、6 日目に訪問した職業訓練センターは、日本との働き方の違いを学ぶ上で非常に学びのある場所であった。この施設は、支援を必要とする若者が企業で働くことを目標に、仕事に必要なスキルや資格を 2 年～3 年半ほどかけて身に着ける場所である。彼らはここで身に着けたスキルを活かして企業へ就職し働く。または学校を卒業したあと、企業の実習生として実際の職場で経験を積みながら技能を身に着ける人も多いと聞いた。つまり特定の職務に就く「ジョブ型雇用」ということだ。

この話を聞き、日本との就職・働き方の違いに驚いた。日本では、まず会社に入社し、その後に研修や実際の仕事を通して配属が決まり必要な知識やスキルを身につけていく。一方で、ドイツでは就職する前から自分が就く職業に必要な技能を身につけ、資格を取得するという道がある。

私自身の就職活動を振り返ってみてもその違いを実感する。私は面接や選考過程で、専門的な資格やスキルを求められたことはなかった。企業から求められたのは、これまでどのような経験をしてきたのか、その経験から何を学んだのか、どのような考え方を持っているのか、という「人」としての部分だった。これが日本とドイツの働くことに関する大きな違いだと感じた。

４考察

日本のメンバーシップ型雇用や休日でも仕事に向き合う姿勢には、企業への強い帰属意識や高いチームワークといった国民性が表れていると感じる。一方で、それが労働時間の長さや、仕事とプライベートの境界線を曖昧にしてしまう側面もある。

これに対してドイツは、店舗閉店法やジョブ型雇用から仕事とプライベートを切り分ける考え方が強く感じられた。実際ホストファミリーも「休日を楽しむために仕事をしている」と話していたのが印象的だった。もちろん、どちらのスタイルが優れている、あるいは悪いということではない。それぞれの国や社会の中で、それぞれの生活や働き方が形作られてきた。今回のドイツ訪問を通して、これまで自分が「当たり前」だと思っていたことは世界から見れば数ある

中の１つの基準にすぎないことに気づき、自分の視野の狭さを痛感した。

　来年から人材業界で働く社会人として、働くことに関して悩みを抱えている人、採用に悩みを抱えている経営者に対して１人１人に合った働き方の選択肢を提示できるようになりたい。また働くことに限らず自分の知っている当たり前に縛られずに、広い視野をもって生活できる人になりたいと思った。

参考文献

労働時間法に基づく労働者保護―日曜・祝日労働の法的規定
WD-6-078-19-pdf.pdf
バイエルン州ポータル
Bayerns Innenminister Joachim Herrmann und Arbeitsministerin Ulrike Scharf: Sonn- und Feiertage stehen unter besonderem verfassungsrechtlichem Schutz – Aufweichung des Ladenschlusses kommt nicht infrage – Bayerisches Landesportal